

釧路南ロータリークラブ会報

第16回 例会報告 2007.10.26 通算1227回

・点 鐘 佐野会長

・お客様と来訪ロータリアンの紹介
今回職場訪問先の鳥取神社 宮司 木下正明君

・会長挨拶

このたびは職場訪問例会を引き受けてもらいまして、木下宮司本当にありがとうございます。また、木下さんは釧路RCの幹事を現在なさっており、色々とお世話になっております。明後日、28日（日曜日）帯広にて新入会員の勉強会があり、今年度入会された4名の方と私が行って勉強してきます。

・幹事報告

* 釧路RCより11月のプログラム、弟子屈RCより創立50周年記念誌が届いております。

・委員会報告

親睦委員会

・本日のニコニコ献金

福井 克美会員 先日は葬儀で、お世話になりました。

・本日のプログラム

「職業奉仕月間に因んで」職場訪問移動例会

担当 職業奉仕委員会

担当は職業奉仕委員会福井委員長お願い致します。

●職業奉仕委員長の福井です。本日は、職業訪問例会として鳥取神社さんにお世話になることになりました。本当に有難うございます。職業奉仕委員会では、特色のある職場を訪問し、多くの職業を知るとともに職業への理解を少しでも深めていただきたいと思います。鳥取神社は、明治24年に島根県の

出雲大社より御祭神を拝請し創建された由緒ある神社であります。鳥取開基百年を記念して作られた資料館も見学させて頂けるようですので、皆さんに是非見て頂きたいと思います。それでは、木下さん宜しくお願い致します。



正二位、慶徳公御筆



池田慶徳様、七歳肖像（向かって右）

徳川慶喜様、七歳肖像（向かって左）



水戸前中納言様御筆



徳川齋昭公の御書



旧鳥取藩主14代、池田仲博侯爵(向かって左) 槍、国俊作、旧池田藩主蔵、国宝級
14代池田仲博様、夫人池田享子様



槍、国俊作、旧池田藩主蔵、国宝級



棟鬼瓦



棟鬼瓦



棟鬼瓦



棟鬼瓦の説明文



鳥取県士族移住前史

明治維新の変革、それは武士たちにとって青天の霹靂（へきれき）であった。明治二年に版籍奉還、同四年に廃藩置県が実施され、武士たちが経済的な抛りどころであった俸禄が、金禄公債証書に変えられ西南戦争によって激化したインフレで、公債証書は反古同称となり下級武士のほとんどが窮乏の淵にたたされた。

鳥取池田藩三十二万石の旧家中は、特に窮乏がひどかった。長年、武技一すじに生きてきた鳥取県士族は廃藩置県後は従来、度外視していた学問、芸能、商売に頼らざるをえなくなった。しかし、長く特権の座に安居し農・工・商に依存の生活を送ったこともあって、経済的自立はまことに困難であった。ま

た、因幡、伯耆両国は山陰のへんぴな土地で生産性の低い農業が主産業であり、城下町鳥取には鳥取県全土族の六、七割が住んでいたから、失業士族には働く適当な職もなかった。士族の困窮は年々ひどくなり、明治十五年には県下全土族五千余人のうち、貧乏で三食を欠くものが一千数百人もあり、ついには餓死するものもあったという。廃藩置県により、鳥取池田藩は鳥取県となったが明治九年、鳥取県は廃止されて島根県に併合された。城下町鳥取から県庁はなくなり、新しく県都となった松江からは正に辺境に置かれ、交通も不便であったから町は寂れて、士族とともに中小商人の窮乏もはなはだしくなった。そのため、明治十三年に鳥取県再置の声があがり同十四年、窮乏士族の集団である共斃社が鳥取県再置の運動を開始した。士族の困窮救済として、士族自らの手で生計をたてるため島根県は、士族授産として帰農移住、開墾をすすめてきたが明治十四年、鳥取県再置の初代県令山田信道は、鳥取県士族の北海道移住について非常なる熱意をしめし、政府もこれをとりあげて同十五年「移住士族取扱規則」の調査立案を、北海道三県(札幌・函館・根室県)に命じ、根室県は同十六年六月同規制を布達した。あらましこのような経過をたどり、鳥取県士族の北海道移住が決定したのである。明治十七年六月九日、鳥取県士族移住者四十一戸二百七人が、第一次として人跡未踏のペットマイ原野の一角に、集団移住帰農して「鳥取村」を創始した。ついで、翌十八年五月十四日第二次六十四戸三百六人が移住し、総戸数百五戸、総人口五百十三人の村落が形成された。第二次が移住した年の秋には、阿寒川が溢水氾濫して農作物は収穫皆無となり、以来、毎年のように水害が生じてその日の食糧にも窮するようになり、一時は離散するような情況もなった。北海道庁は、阿寒川の溢水氾濫防止と村民救済事業として排水溝を堀削したりしたが、大正六年に阿寒川切替工事が完成通水して、一応水害の危機も少なくなった。そして、大正九年秋の大洪水により阿寒川はオンネビラより堀削されていた第一分水溝に流入し、大楽毛川に合流して本流を変え、以来、洪水の脅威より救われた。阿寒川の溢水氾濫はなくなったが、釧路川は氾濫して下流の釧路市や鳥取村の一部住民にも被害をあたえていた。しかし、昭和六年に新釧路川が完成通水したので被害は皆無となったが、この釧路川治水工事は北海道庁が大正十年に着工し、十年の歳月と巨額の事業費を投入して完成したもので、水害から救われるとともに沿岸流域は自然排水がよくなって開発が進み、鳥取村にとっては画期的な大事業であった。鳥取県士族移住者の、製紙工場誘致運動が成功して大正九年に、富士製紙株式会社釧路工場の建設により操業が開始された。大正、昭和初期の鳥取村財政は、非常に苦しかったが富士製紙、王子製紙釧路工場の援

助に支えられて運営された。昭和初期に鳥取村には、同工場から多額の家屋税が納入されるため、村民の戸数割賦課はゼロであったから、家屋を持たない者は無税同称であった。そのため、共栄市街は借家とともに釧路市内に勤務する者が増加して、次第に発展した。鳥取村は、昭和九年に開村五十年を迎えたので記念事業の一つとして、同八年に大楽毛原野国有未開地七百町歩の払い下げをうけて、自作農創設事業をはじめた。この事業は村内の小作農やその次男、三男を入地させて、自作農を創設するという特異なものであったが、その用地の大半が低位泥炭の過湿地帯であったので、開墾は遅々として進まず遂には、経営を放棄しなくてはならないまでになった。しかし、昭和十五年にユッパナイの農民が「暗渠排水事業」を実施して成功したので、鳥取村ばかりでなく、釧路管内の湿原開発は急速にすすめられた。この暗渠排水事業は、道東における発祥であり、釧路湿原開発の先駆け(さきがけ)となった。鳥取町は、鳥取県士族移住者が水魔と戦い湿原に挑みながら、移住の先駆者として士魂をたぎらせ困苦缺亡に耐え忍び、一畝一鋤と開墾に精進して基盤を作ったのである。そして、その基盤の上に幾多の先達が、血と汗にまみれて苦闘を重ね、鳥取町を築きあげたのである。鳥取開基百年の歴史は昭和二十四年十月十日、釧路市への対等合併により鳥取町の名称は、行政的には永遠の終止符を打った。しかし、大釧路建設のため小異を捨てて大同についたその意気込みと、鳥取村を創始した士族移住者の開拓魂は、開基百年を迎えた今なお脈々と流れつがれている。昭和三十八年六月九日、鳥取開基八十年を迎えたので釧路市は、同記念事業会と共催で「鳥取開基八十年記念式典」が盛大に挙行された。記念事業会は、鳥取開拓記念碑を建立し鳥取開拓記念館を建てて八十年の歴史を伝えた。また、鳥取県の「因幡の傘踊り」が継承され、同年十二月二十日に鳥取市は釧路市との姉妹都市提携を宣言し、士族移住者の生れ故郷鳥取との絆をいっそう強めている。昭和五十九年六月九日、合併した旧鳥取町はこの日をもって「開基百年」を迎える。



・次回のプログラム

11月2日(金)

「ロータリー財団月間」

会場 釧路全日空ホテル

担当：ロータリー財団委員会

・点 鐘 佐野会長
今週の会報担当：木内治彦会員